花傳書

特別
チ12
3606
2

特
ナ12
3606
2

宮内省
圖書寮

調子の次第乃事 先調子といひい天地ひ
きまわしとる何るも調子よりも深く事い
ありとりはけこれをいこふかきわて調子を
きためすてうひなわ拍をとりあつふ
るなわかくくよくくいたへ　ばまきよ
おかうこうきまるところの条
五調子の次第乃事
一双調といひいめてだき調子なわ則喜三月ば
調子ば定　あかくまとふ時い赤なわ　人乃
ふ勝まとふ時い肝乃荒也　そをあをき也
味いすきあち也　本性ところをさらめ眼ば
通るてうあ

横山家蔵

58 2104

一黄鐘と云い　文三月の調子　まうくるとゆ
時い南也　五臓なる元時い心の義なわ　そそ
あうゝあちそひまうゝ　火性と見をさゝめ
舌通てうゝ也
一平調子と云い　秋三月乃調子也　まかくる
とゆ時い西也　五義なる元時い肺義也　そそ
ちろゝ　味そうゝきも也　金性と見をさゝめ
もかる通調子也
一盤涉と云い　冬三月乃調子也　才角なとゆ
時い北也　五義なる元時い腎義也　そいろ
くろゝ　味い鹹なわ　水性とこまをさだめ
耳る通てうゝなわ

一一越と云い　土用乃調子なわ　まかくる
とゆ時い中央也　五臓なるとゆ時い脾の義也
そそ黄なわ　味そあま　土性と見を定む
口る通調子也　土用乃調子ゝ作ゐて多く
さまくゝの子調乃法これ刀　委いしまきれ
すゑようきちるそなわ　国月も土用とれ乃
調子也　又土用乃月日い調子ちうふるわ
一一越ちうい作うい　断吟なわ
一平調ちういつふい　絶下無調也
一双調ちうい作うい　鳥獸なわ
一黄鐘ちうい作ふい　鸞鐘なわ
一盤涉ちうい作うい　神仙上無調也

十二天の調子の事

一一越十一　鄭吟十二　平調正　勝絶二

下五調三　双調四　鳧鐘五　黄鐘六

鸞鐘七　盤涉八　祝仙九　上五調十

時の調子此事

子　呂　盤涉　陽冬　定　呂律

丑　祝仙　陰

刀　呂律　鸞鐘陽

卯　呂律　双調陰春定

辰　律　鳧鐘陽

巳　律　上巳調陰

午　律　黄鐘陽夏定

未　呂　一越調陰土用定

申　律呂　鄭吟陽

酉　律呂　平調陰秋定

戌　呂　下五調陽

亥　呂　勝絶陰

一断　平勝　下双調　黄鸞　盤祢上

平調秋也白ひるかゝ

一越　赤　苦也　未　申　酉　戌　亥　下ヲ調　絶醎冬一

午黄鐘　南　中央一城　土角　如　盤涉子中秋　黑也

白中巳　支也　上ヲ　辰　赤卯　刀　丑　祢仙　鸞鐘

双調春也　青酸　同出

右方〻〻ヲ調子めし

甘辛酸苦醎　五味　ヲ色ヲ時　ヲ季ヲ如し

一雨い　双調　一波い　盤涉

一川い　盤涉　一竹い　盤涉

一木い　双調　一石い　盤涉

一鳥い　盤涉　一鐘い　黄鐘

一雷電い　盤涉　一魚い　平調

一風い　平調　一土い　盤調

一双調い　發心の　調子也

一黄鐘　脩行の　調子也

一平調　菩提の　調子也

一盤涉　涅槃乃　調子也

一一越　才便の　調子也

一五調子を　宮高角　徴羽　五音

引合調子

一宮をもちゐるはあてくいきをけきいく調子は
あんを一越なわ土角はもちゆる也
一高い乃とはあてこいきをけきいくせい平調
なわ秋乃もちゆる也
一角いはあてくいきをけきいくきは双調也
春乃もちゆる也

一徴舌はいきをあてく調子乃あんを盤なわ
をはもちゆる也
一羽い右の人さゆひはてきんをは時をかへ
あてくひくきい黄鐘也文はもちゆる也
十二調子を吟する横乃
一一越より二調子下を吟するたゆふまいと
いふ也は侍あり
一一越なわ二重乃吟あをて調子はあてこ
吟し次第くは何もしこころはあをてを高調
子を一断平絡下双鳧黄盤赤上といたへ
一祝云乃調子の事
呂いきうきんなわいけるいきなわはふと云

律いうれいなわひきつるいきもこまいきよ
いきといふ也

一双調い黄鐘一説ハ二調子い呂の高とさゝめ
ちうきんよりもちゆる也

一双調上ハ調子を又とも下ハ調子を母とも天
地陽陰和合のてうと見を云双調いあゝひ
とゝ乃なかとよむ也うろゆへよ説所成就の
てうとあつきうり

一五音相通の事

あいうへを
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やいゆえよ
らりるれろ
わゐうゑを

一喉内

あいうゑを
かきくけこ
やいゆゑよ

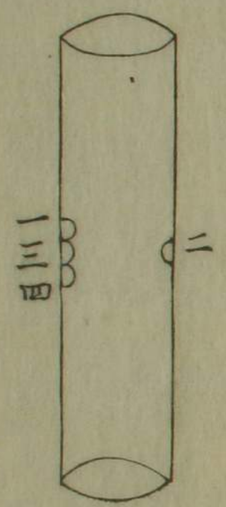
一唇

はひふへほ
まみむめも
わゐうゑを

一舌

さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
らりるれろ

一四完吹横のる



三四二三新四冗寒平
一下二双一二鳥三黄一二鸞
四盤一四赤仙二四上

一越 ●●●●●
一鶏 ●●○○○
一平 ●●●○○
一猪 ●●●●○
一下 ●●○○●
一双 ●○○●○
一鳥 ●○○○○

一黄 ○●●●●
一鸞 ○○○○○
一盤 ○○●●●
一赤 ○●●●●
一上 ○●●○○
一座 ○○○○●

座ぞみくくしひ乃調子の事小座ぞすてい
平調よりくくしひいたり双調よりあきてうくしひ
とむらなわ
ひろまるてい双調より黄鐘よりくくしひあきて
とむらなわもてやうくあくい十番目
かとよは盤涉乃あけて万歳んさわあくく
是くい南座のさくきの応の調子なわくまを

時の調子といふ四季の調子土用の調子右乃
とりあひ口伝よあり

一春い　双調
一夏い　黄鐘
一秋い　平鐘　さわやかなる平調いあまわひくき
調子あるきい平調まわうしひいてやうて
双調ようてうこまあるひも熟別秋い
あまわはたうき調子をよいきふも毛子調い
秋いものあちまうてこころをこき拍子あるきい
あまわ調子たうきいわわはお應せん五音は
とふときい秋をきんかはとふもは低なわ
一冬い盤渉なわさはたうしき季の調子あるきい

とてうめうわちや盤渉を強うへい座ぬふ
わ應せんころもはくうひまうき拍子は
あひうこうもも双調う黄鐘はてうひいて
一座乃すきは盤渉はとむるる毛あるひなわ
とあくをい秋はちうひてうひくき事を
きふも也うれ子調ををなわうへいうせの
をとも調子たかくをさまくく吹かち時雨の
ふ松風まとうりあうれのふ毛まても調子
たうきものなわうれお應を吟もるはうて
調子ひくきうをきふあなわ冬度数の笛まう
うんーきをうといろへ扇双調はあ数をへ
一土男乃調子い一越なわ同国月も一越なわ但

土用乃内なりとも日乃調ひいちうふへて
まひはまをゝい春立ゝい立秋ゝらい秋
をゝらい冬季乃てうをうふへし右乃
子細いむゝ天皇よりてんこ大王とゝまをあり
市子五人ましまし一番い大京乃王子二番い
二京の王子三番ゝ三京の王子と是をあつを
四番い四京乃王子なり五番い五京の王子と
ゝなりはゝあゝうち四人乃い四季城一季
けゝわきなりふ五京社王子乃ゝ志ゝむわけ
あゝ志うるゝゝけて世界ゝ京の王子
大かうをんとのけうきをえ給ふかうゆへゝ
ゝけて七さいの時時はあゝ四人乃王子ゝち

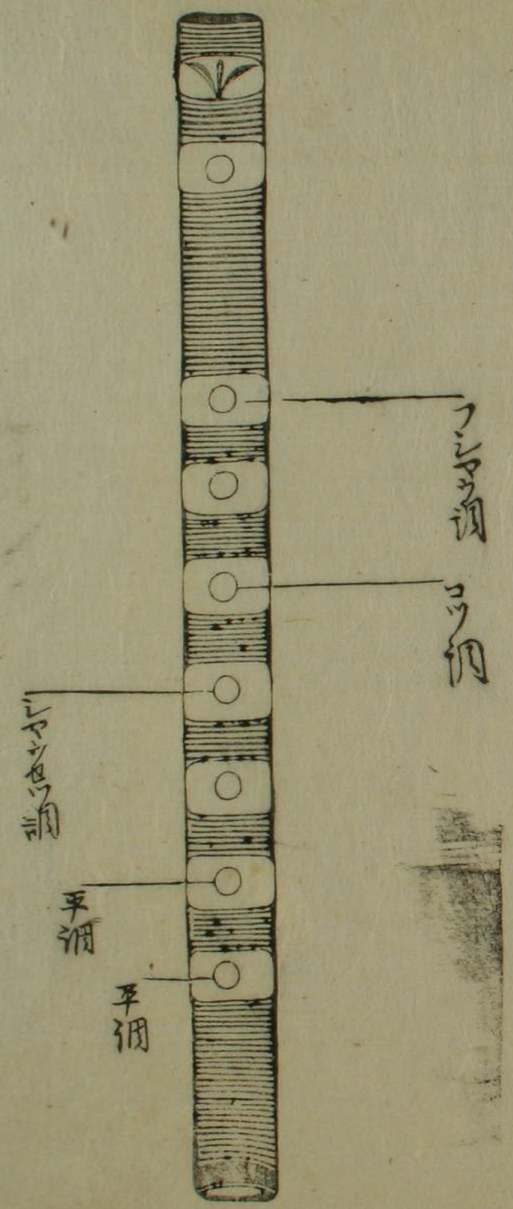
はけうきをとゝせけあいゝくきをゝゝめ給ふ
を時五京の王子い天皇こうう川乃うゝ
めゝの池とゝ池ありうまゝゝめけの池乃中ゝ
城をうゝゝ給ひは城ゝこもわ清ゝくさを
ゝめ給ふ清あふ四人のを子ゝちさまゝく
せめゝくゝひなりふ皮大かうをんとのける
きをぬきうゝきのうゝへむきてあわ給へい
四人のを子ゝとくをきわまけたまひ血の川
七日七夜かうまゝくるを時大をゝわもんてん
ゝうせを勅使乃ゝたてゝを乃れいさあゝそ
五京乃を子ゝも志ゝむけゝをけあをとの給ふ
を時春三月ゝわ十八日五三月ゝわ十八日秋

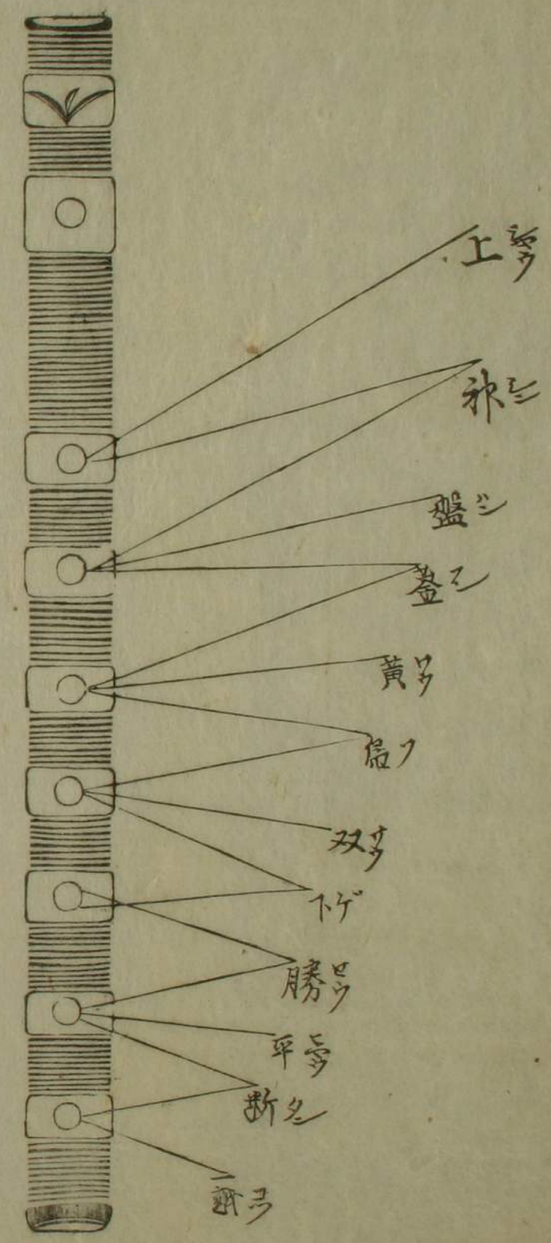
三月より十八日迄三月より十八日合七十二
日を五京の王子より第せけきいうきよても
清ふそくとてまつりいうをあつたまへい
めいの日もつ日たいらない日をもつて三年の
一度の閏月を作らわいつ〳〵土用七十二日よ
うへてまいつ〳〵せたまひ名きいる京の王子い
清よろしひかきわあつ〳〵れ時はかうひとて
もんをんをうせよ土月はうちよまひとつふ
日をくだ〳〵たまふそ子細よてとようのうち
ちもまひ閏子いちうふなわ又四季よ土月の
閏子のちうつもはゞ低なわさてしうこれ時代
今よりん考なわ

一五閏子きんをる拵れ事右のまのひとさ〳〵
ゆひすてきんする時鼻へひ〳〵きい黄鶯也
一ちゐをちへひ〳〵きい平閏なわ
一ひ〳〵ひよひ〳〵けい盤渉なわ
一耳へひこけい一越閏なわつるよ拵りふ多い
双閏なわ大すめ也
一わ〳〵まの閏子双閏也むし〳〵そうん志きを
もちひつまを盤渉もゐ拵多きいわさまは
あをもちいるなわ史すのゐ色よ似こわとて
双閏よさとむことさ〳〵双閏い木拵也うゐ
ゆへよりていゐい木をもつて出来とれそ
木拵いわ應の閏子なわ又いさく双閏い志乃

洞子也云い四季のうつめあきい家のうつめ
ぶりめてだき洞子也
一狂云の洞子乃る弟一乃洞子一大事なわ
まへのあらいものてうしをすくりて相應
していひいう中はまわちと洞子をあをて
ひいわまさおきめ時分よりとのてうは
おをーとくむへし
一たやうちのふるい竹の言かとのあひしひ
乃蔵ちのあひしひうのたくひいい
まもくてうだうよいひてすいうも
あくといふあひうひすわうひの洞子
まり一洞子るくいふあひうひ也あ日の
うへのあひうひ同お
一うかまかんうんは松風うのたくひい
洞子たうきをきふかまわうひのてう
むよりか横のたくひ和是をもつて分別
あるへ
一西行様よあの宗うきの戸板ひきてうちへ
入うへといふとろ狂云ふへ内入うへ
さくくくと云洞子めわえい揺花とう
なまをうみうくまふうくくても揺花と
うくれをうくくとときむうひの
さくうかの洞子とうひの位をくさう
さうといふへしはいうけかんう也か揺乃

事あまたこゝいつ度の儀ゝも度々へし


フシモノ調
コツ調
シヤシセツ調
平調
平調


上ノ
祢ミ
盤ソ
盞ム
黄ラ
倍フ
双ウ
下ゲ
勝ロウ
平ヨウ
新ク
新ラ

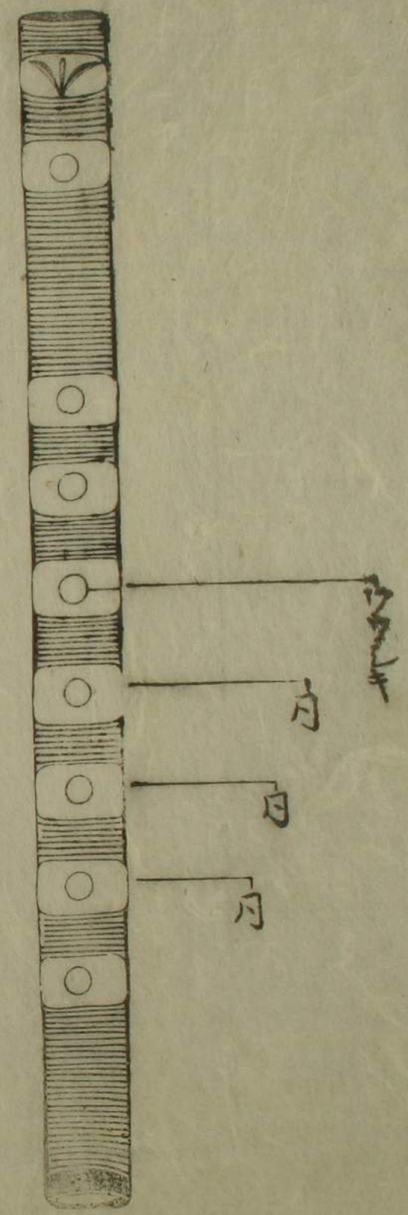
九ノ次トモラ
ロトモイフ
八
六
六
中
五
ウク
四
上
三
三
二
乙
一
下
七

フモウ調
コウ
セウセウ
ヒウ調
月

双調
内
内

下無
内

黄鐘
太簇
夾鐘
姑洗



右ふゑの圖おかうくはしくしるしこゝにをいて
十二調子吹ふてうつわり高呂律分別あるへし
さわあうう笛はかきわあきはゑてうつてん
ゆきうう太うさのこうろまてなわうく
はゆかんようなわ
一清おろしや小座ゑとみくのちやまう
わうさまふとのち座此時双調乃楽ま吹
ういぬあうびなわ
一わうさまう乃笛まうくく座付を吹へしやて
座付とうふ伐なわ座付のはつほ乃のふまは
ひくわたましの座付乃まへまはひらぬ
もの也なわ秘書なるちあうひなわひくう

家よりあひなわかへるはくいんたへし
一 酒ゝい双酒可然ん盤洗もあのてうあきい
よくゝへともおあくい木性をおとものちひ
双酒むよる
一わさ乃ゝすわ大夫へゝゝひうけて酒子乃
事わうゝ云いかうとて我酒子をいちやう
きよせまゝき也大夫乃めわうわをきゝわを
うれわ應むよるも大夫乃酒子たわくおと
るいゝひろき應れ能いきをるすゝ昌蔵るを
酒よわきの酒子乃ゝゝひ大夫ゝわうけとゝ
ゝいわ應の酒子うけとゝいてさてゝすき酒子よ
あをまゝゝ大夫へゝゝひゝる蔵酒子をゝゝして

わゝとゝ事ゝゝゝひなわまゝゝ云よくいてゝる
大夫ゝゝいわさゝわ大夫へ酒子ちうひるす
ゝ一乃わきのちゝよくゝるへ
一ゝゝひよきやゝゝきん乃あひしゝひ乃てゝう
をん志ゝのすゝゝひ乃志うきん裏傷のこを
いろをよくゝゝわ應よあひゝゝふへし
一酒の酒子城きんをゝやゝゝ乃事ゝ口城ふさき
ゝゝのいきてうわよてひとの見くるいゝぬ
祖ようなわゝへいをさうたう乃酒子い通る
地なわを酒子よやうてゝうゝひいゝと地なわ
こをを酒の酒子應蔵わ應れ酒子といへを留
あきとき乃るせさわあゝゝゝゝき地あわとも

吹拍乃拍子やうてやうて右乃ごとく吟ぜれそ
吹拍の調子通るものも也

右調子乃仮法九十一ケ条也まるゝ
なわ何も天地はれるまはてうゝ
もゆゝるゝいあゝ元分は藝の分要也
調子をうあへすて謡なわ拍あつ
うひ及ひかゝ〳〵すりく十二調子れ
さゝこうんきうん響古肝男也